

# 久保田さん(藤島)最高賞

## 全国高校生読書体験記

903  
ムグラで誕生

命救われた病院訪問



自分が生まれた病院を訪問するきっかけとなった作品を手にする久保田さん。命の尊さをつづった読書体験記が全国高校生コンクールで最高賞に選ばれた＝福井市の藤島高

第38回全国高校生読書体験記コンクール(公益財団法人・二ツ橋文芸教育振興会主催、福井新聞社など後援)で、藤島高2年の久保田 琉仁(とほ)さん(16)＝鯖江市＝の作品「903 ムグラの命をみつめる旅」が最高賞の文部科学大臣賞(1編)に輝いた。一冊の本との出会いをきっかけに、16年前、超低出生体重児として生まれた自分の命を救ってくれた病院を訪問。生きることのかげがえのなさや、命の尊さを再確認したことをつづった。県内から最高賞に選ばれたのは2人目。(守長奈生佳)

## 生きる尊さ再確認

読書体験記は、本を通して影響を受けたことや、考えを深めたことなどを書く。今回は全国438校から9万6805編の応募があり、各都道府県から1編ずつ選ばれた優良賞47編を12月5日の中央選考で最終審査した。

久保田さんはわずか903グラムの超低出生体重児として、沖縄県石垣島の総合病院で生まれた。同じ超低出生体重児に生まれ、生後2カ月でこの世を去った男の子について書いたノンフィクション「いつか貴い陽のしたで」(辻聖郎著)を読み、「自分の命を救ってくれた病院に行ってみた

い」と13年ぶりに石垣島の総合病院を訪れた。

当時の先生と再会したり、生後間もない久保田さんがいた新生児集中治療室(NICU)を特別に見せてもらった。死と隣り合わせの新生児たちを24時間態勢で診る医師や看護師のたくましさ、見守る家族の愛を感じたと記した。

NICUのそばで涙を流す初老の女性を目の当たりにした時は「16年前の私の祖母だと思った」と思わず声を掛けた。自分もこのNICUに3カ月いたが、今は元気に暮らしていることを話すと、女性は安心した表情になったという。病院を出た時に「私は今も生きています」と実感し「普通の生活が、かけがえのない尊いものだ」と気づいた」と思いをつづった。

読書をきっかけにした今回の体験について、久保田さんは「胃腸が管が入りおなかが減っても苦しくても意思を伝えられない小さな赤ちゃんの姿が残酷で辛かった」と振り返りつつ、「こつこつと過程を超えて生きていく今の自分を見つめ直すことができた」とした。表彰式は28日、東京都内のホテルで開かれる。